

目次

凡例と注記

序章 本研究の概要と目的	1
第1節 本研究の位置づけ	2
第2節 本研究の構成	3
第3節 問題の所在	6
第1項 先行研究にみる現状	
第2項 問題設定	
第4節 本研究の目的とプログラム開発の視点	12
第1項 目的とプログラム開発	
第2項 研究枠組み	

第1章 学校・地域間連携の概念検討とモデル提案

第1節 学地連携の基盤的理論	19
第1項 基盤的理論としての発達論	
1 生涯発達心理学	
2 発達生態学	
3 ライフサイクルからライフコースへ	
4 関係発達論	
第2項 基盤的理論としての教育論	
1 教育の機能的分類-欧米における議論-	
2 教育の機能的分類-わが国における議論-	
3 Nonformal Education (Informal Learning) の実践的視点	
第3項 基盤的理論としての地域論	
1 コミュニティとシンボリック相互作用論	
2 地域へのアプローチ	
第2節 第1章の総合考察	
- Child-Centered Development Model の提案 -	48

第2章 研究I 学校・地域間連携の現状と評価

-住民・保護者間及び校区間比較から-	58
第1節 問題と目的	59
第2節 方法	59
第1項 対象地域	
第2項 調査概要	

1	対象者、期間、倫理配慮	
2	調査項目	
3	データ処理及び統計解析	
第3節	結果と考察	64
第1項	属性別回収状況	
1	人数	
2	職業	
3	家族員数	
4	居住歴	
5	属性小括	
第2項	学地連携尺度	
1	探索的因子分析による因子抽出	
2	確認的因子分析による分析モデル検討	
3	分散分析による平均値差の検討	
4	学地連携尺度小括	
第3項	学校支援の希望	
第4項	学校教育への期待	
第5項	学地連携関連制度の認知度	
第4節	第2章の総合考察	82
第3章	研究Ⅱ 地域資源を活用した Nonformal Education プログラム実践と評価	
	-子ども、保護者、教員の自由記述分析から-	87
第1節	問題と目的	88
第1項	本実践に関する留意点	
第2項	地域主体型学地連携の必要性	
第3項	本実践の出発点	
第4項	問題の所在と目的設定	
1	地域における子どもの「居場所」に関する先行研究	
2	目的設定	
第2節	開発プログラムの実践概要	96
第1項	対象地域	
第2項	活用を意図した地域資源	
第3項	開発プログラムの実施・運営体制	
第4項	開発プログラムの内容	
第3節	開発プログラムの評価方法	100
第1項	評価対象	

1	子ども（1次調査及び2次調査）	
2	保護者（2次調査のみ）	
3	教員（2次調査のみ）	
第2項	分析手順と分析方法に対する批判	
1	データ処理	
2	分析手順	
3	テキストデータを評価することへの批判と本研究の立場	
4	倫理配慮	
第4節	結果と考察	107
第1項	1次調査（子どもの自由記述分析）	
1	形態素解析による単語抽出	
2	クラスター分析による傾向性の把握	
3	多次元尺度法による単語布置	
4	対応分析による軸の解釈（対称解）	
5	1次調査の小括	
第2項	2次調査（子ども、保護者、教員の自由記述分析）	
1	形態素解析による単語抽出	
2	クラスター分析による傾向性の把握	
3	多次元尺度法による単語布置	
4	対応分析による軸の解釈（対称解）	
5	2次調査の小括	
第5節	第3章の総合考察	119
終章	総合考察	124
第1節	各章要約	125
第1項	序章要約	
第2項	第1章要約	
第3項	第2章要約と CCD モデル上での考察	
第4項	第3章要約と CCD モデル上での考察	
第2節	本研究の成果と課題	131
第3節	今後の展望	134
資料		136
引用文献一覧		154
謝辞		